

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	武蔵野市放課後等デイサービスパレット			
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 3日		～	令和7年 10月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	令和7年 10月 8日		～	令和7年 10月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 10月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケア児の受け入れの為、看護師が在籍している。	看護師が在中している事で、医療的な面だけでなく感染症等への取り組みについて、職員が定期的に又は折に触れて専門的な視点から話を受ける事ができ、感染症の予防等の対策を取る事ができる。	引き続き予防対策に取り組んでいく。
2	近隣にある児童館や訪問看護ステーション、市立図書館や大学との関係性を築いている。	主に長期休み等で日程を調整し、外出やイベント開催を計画している。普段とは違った雰囲気の中で活動の充実や利用児の楽しさに繋げている。	引き続き取り組んでいくと共に、新しく関係を築き交流の幅を広げていく。 利用児の利用日数によっては全員が同じようにイベントに参加できない場合もある。できるだけ日程調整をし、参加できるよう計画していく。
3	連絡帳アプリの導入をしている。	登所前に利用児の様子を確認する事ができる為、様子を知った状態で支援に臨む事ができる。 支援中に連絡帳を書く必要がない為、支援に専念できる。 曜日によって利用が異なる為、手紙を配布する際に時間差が出てしまう。アプリを導入した事で、一斉に保護者に手紙を配布する事ができる。	引き続き取り組み、利用児への丁寧な支援や保護者への情報の発信を心がける。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	身体障害児や医療的ケア児が対象の事業所であるが、事業所が2階部分にある。	階段を使用して避難する場合、車椅子に座ったままの避難が困難な為、車椅子から降りた上で職員2人で1人の利用児の避難を行っている。 避難経路によっては手狭な場所を通る事がある。	避難する為の人的環境や車椅子等の物的環境など、安全に非難する為に同法人内で協力体制を整えている。 発災場所に応じて複数の非難経路の確保が必要な為、引き続き、緊急時にも職員が適切な対応を取れるよう、併設するハビットサテライトと話し合いやシミュレーションを行う事で協力体制を整えていく。
2	利用児が増えているが、送迎車のサイズを上げる事ができない。	マイクロバスのサイズを停める為のスペースがない。	帰宅便を増やす事で乗車人数を分散している。
3	送迎車の数が限られている為、希望通りに送迎できない学校や時間がある。	学年が上がった事により、学校の下校時間が遅い時間帯に集中している。その為、複数の学校から利用希望があっても送迎車が限られている為、配車をする事ができない。	学校へ送迎車を配車できない場合でも、自主登所をしていたく事で、利用ができるよう設定している。